

「NEDO懸賞金活用型プログラム」 (中間) 制度評価報告書 (案) 概要

目 次

分科会委員名簿	1
評価概要 (案)	2
評点結果	4

はじめに

本書は、NEDO技術委員・技術委員会等規程第32条に基づき研究評価委員会において設置された「NEDO懸賞金活用型プログラム」（中間評価）の研究評価委員会分科会（2025年6月24日）において策定した評価報告書（案）の概要であり、NEDO技術委員・技術委員会等規程第33条の規定に基づき、第80回研究評価委員会（2025年8月8日）にて、その評価結果について報告するものである。

2025年8月

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
研究評価委員会「NEDO懸賞金活用型プログラム」分科会
（中間評価）

分科会長 各務 茂夫

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 研究評価委員会
「NEDO懸賞金活用型プログラム」(中間評価)
制度評価分科会委員名簿

	氏名	所属、役職
分科 会長	かがみ しげお 各務 茂夫	開志専門職大学 学長／東京大学 特命教授
分科 会長 代理	よしもと ようこ 吉本 陽子	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 政策研究事業本部 産業創発部 主席研究員
委員	おおしま まり 大島 まり	東京大学 大学院情報学環／生産技術研究所 教授
	おざき のりあき 尾崎 典明	エスファクトリー 代表／一般社団法人 TX アントレプレナー パートナーズ(TEP) 副代表理事
	まき かねたか 牧 兼充	早稲田大学 大学院 経営管理研究科 准教授

敬称略、五十音順

「NEDO懸賞金活用型プログラム」(中間評価)

評価概要 (案)

1. 評価

1. 1 意義・アウトカム(社会実装)達成までの道筋

本事業は、委託や補助による研究計画に基づくプロジェクトとは異なり、目標水準以上を達成した成果に対して懸賞金を出すという新たなスキームであり、これまで NEDO とは接点がなかった企業、大学、研究者、スタートアップ等に参加を促すことによって、新たな技術シーズの掘り起こしが期待できる意義のあるプログラムである。また、事務手続きの簡素化や、開発環境の提供やコミュニティ形成などが行われている点も評価できる。

アウトカム達成までの道筋は明確に示されており、課題テーマごとに競技方法や懸賞広告内容を決め、伴走支援も行いつつ、コンテストで表彰するという一連のスキームはよく練られている。また、懸賞金だけが応募のインセンティブではなく、研究開発期間中の伴走支援やユーザーとの連携機会の創出なども応募のインセンティブになり得ると考える。

知財マネジメントおよびデータマネジメントに係る運用は基本方針に基づいており、特段の問題はない。

一方、今回の NEDO 懸賞金活用型プログラムの設計が、イノベーション創出の中でどのような合目的性を持つのかという認識が重要なので、従来の補助金との違いを明確にし、海外の懸賞金との比較を行い良い点や課題などを整理することが必要と思われる。また、伴走支援も企画運営事業者が実施するようなので、企画運営事業者の力量が極めて重要であり、適切な事業者を採択していただくとともに懸賞金事業に係るノウハウやデータが NEDO 内に仕組みとして適切に蓄積されていくことが望まれる。

今後は、モチベーションを高める野心的な課題設定(懸賞広告の内容設定)が極めて重要になると思われるので、表彰式参加者へのヒアリングなども丁寧に行いながら、どういう課題が懸賞金型に向いているのかといったデータも蓄積することで、より多くの応募につながるプログラムとなることを期待したい。

1. 2 目標及び達成状況

具体的に事業後2年と年限を区切り、共同研究やネットワーク形成等に繋げることをアウトカム目標としており、実際に共同研究や製品化に至ったものもでてきていることから、達成の見込みは高いと思われる。また、2023年度において多様なバックグラウンドの応募者が多数（175件）あったこと、その中から29件の賞金受賞者が出ていることから、NEDOプロジェクトへの新規参加者を促すというアウトプット目標は達成できている。

一方、費用対効果については、事業費に対する研究開発コスト総額の倍率という指標としているが、公的資金の効率性ばかりに目が向くと、本事業が持つ本来の波及効果を見失ってしまう可能性があるため検討が必要である。また、応募者にとって賞金が得られなかったとしても、本事業の特徴である環境整備や環境の提供、コミュニティ形成など、参加することで得られる満足感を含めた試算を検討するなど、応募者にとって魅力のある見せ方も工夫していただきたい。

今後は、アウトカム目標の共同研究等の実現が、その先にあるイノベーション（具体的な製品・サービス等）の創出を本当に導くことができるのかをもっと明確に認識された上で本事業を運営していただきたい。また、本プログラムが生み出すイノベーションが、グローバル競争市場の中でいかにして勝ち筋を見出せるかという視点も合わせもっている必要がある。くわえて、現状では応募者数や表彰式参加者数は課題による違いが大きく、より多くの応募者や参加者を呼び込めるようノウハウの蓄積をお願いしたい。

1. 3 マネジメント

目的に応じて課題設定委員会、採択審査委員会、懸賞金交付等審査委員会を設けており、課題設定委員会では、国策、イノベーション創出の時間軸、グローバル競争市場における我が国の立ち位置等を考慮して課題設定がなされているものと思料され、適切な実施体制となっている。

懸賞金事業の特性から開発費用の負担は応募者が負担するものであり、適切な受益者負担となっている。

説明会やニュースリリースなどを行い、懸賞金制度を拡げるための取り組みがなされており評価できる。また、事前評価における指摘事項を踏まえて「懸賞広告のやり方」「課題設定方法」「企画運営事業者の選定」「十分な期間をとった周知方法」などが十分練られた上で実施されている。特に、成果普及やモチベーションを高める取り組みは、これまでのNEDOプログラムにはない特筆すべきものであり、本懸賞金制度“NEDO Challenge”の評判を高めていくものと期待できる。

今後は、若い人および国際的にも成果の発出をしていただき、是非、多様な人材を呼び込める良い循環を作っていただきたい。また、メンタリングやイベントといった非金銭的支援に対する応募者の評価について、定性的なものを含めて積み上げて見える化をするようお願いしたい。これまでの効果的な施策は今後も踏襲し、より改善していくために個別テーマについて事業終了後もしくは途中段階でも追跡する仕組みがあると良い。

2. 評点結果

評価項目	評価基準	各委員の評価					評点
1. 意義・アウトカム（社会実装）達成までの道筋							
	(1) 本事業の位置づけ・意義	B	A	B	A	A	2.6
	(2) アウトカム達成までの道筋	B	A	B	B	B	2.2
	(3) 知的財産・標準化戦略	B	B	A	A	B	2.4
2. 目標及び達成度							
	(1) アウトカム目標及び達成見込み	B	B	B	A	B	2.2
	(2) アウトプット目標及び達成状況	B	A	B	A	B	2.4
3. マネジメント							
	(1) 実施体制	A	A	B	A	B	2.6
	(2) 受益者負担の考え方	B	A	B	A	A	2.6
	(3) 研究開発計画	A	A	B	A	A	2.8

《判定基準》
A：評価基準に適合し、非常に優れている。
B：評価基準に適合しているが、より望ましくするための改善点もある。
C：評価基準に一部適合しておらず、改善が必要である。
D：評価基準に適合しておらず、抜本的な改善が必要である。

（注）評点は A=3、B=2、C=1、D=0 として事務局が数値に換算・平均して算出。